

研究主題 「地理総合」「地理探究」の指導と評価 ～新科目の実践と教材開発、評価規準の共有～

I 団体の概要

東京都地理教育研究会は、都立高校・都立中等教育学校等で地理を担当する教員の団体である。主な活動として、年3回の授業研究と年2回の巡検、GIS研究協議会を毎年、実施している。コロナ禍ではさまざまな活動が実施できなかったため、オンラインでの開催を続けてきた。昨年度より再び、集会を再開しており、授業力の向上や教材の研究、共有化を目指した活動を継続している。

全国地理教育研究会と連携、全国大会の企画・運営等の事務部門を担当している。令和5年度は全国大会を東京主催で7月に開催した。大会テーマ「持続可能な地域づくりと私たち」とし、1日目はオンラインで開催、2日目には大塚にある茗溪会館での会場実施となった。2日目の午後は4年ぶりとなる巡検を実施し、浅草橋、両国周辺における震災遺構を訪ねた。

Teams上に都地研チームを作成しており、授業で使える統計資料や各種ファイルを共有するなど、会員間での情報交換や教材、資料の共有化を進めている。

II 研究の目的

令和4年度より新学習指導要領が実施され、「地理総合」に加えて、新科目「地理探究」が今年度よりスタートした。「知識理解」から「知識活用、課題・解決型」の学習への構築に向けて、地理総合で習得する「地図とGISの活用」「国際理解と国際協力」「防災と持続可能な社会の構築」のさらなる充実、さらに地理探究の学習に向けての実践的な思考、技能の指導法、評価の構築を目指す。

III 研究の方法

(1) 授業研究の活用

生徒の主体的な活動を促す授業の構築と、活用しやすい教材と実践を研究する。

(2) 講演の活用

新しい話題や社会の動向を提供していただき、教材作成、授業づくりに活かす。

(3) 巡検を活かしての教材づくり

まちづくりや防災の観点から、新しい教材開発につながるような現地研究を行う。

Ⅳ 研究の内容

- (1) 今年度の授業研究は、若手教員の授業2回と中学校の授業見学を行った。高校の授業では、生徒同士の対話による思考の展開や、地元社会に特化させた教材を提供して考察させるなど、実践的な取り組みが見られた。
- (2) 教職を目指す学生に地理学を担当する大学教員を講師に招いた。中学校の教科書との比較を通して、改めて高校地理科目の内容と、段階的な理解、習得すべき知識技能の階層性を確認できた。
- (3) まちづくりをテーマに赤羽巡検を実施した。荒川知水資料館で、来年導水100年を迎える荒川放水路を学んで都市と防災を、今秋オープンしたURまちとくらしのミュージアムで、高度経済成長期以来の住宅供給の在り方と課題を学んだ。

巡検で訪れたURまちとくらしのミュージアムに移設されたスターハウスと、建物内に復元されている同潤会アパートメントの室内



Ⅴ 研究の成果と課題

今年度は、都地研の企画において若手教員の参加が特に目立った。地理教員の新規採用は多いものの、地理教員が校内にいないため、研修機会を求めている声が多くあがり、都地研の役割を再認識した。地理総合の授業では、生徒が情報を収集し、多面的多角的に分析してアウトプットまでさせることが大切で、教員が教えるのではなく、生徒自らが試行する内容と姿勢を評価することが理想であろう。地理探究は、すべての学校で開かれる科目ではないが、大学入試への対応と、探究的な学習を展開するのに必要な授業時数、教授内容の深度など、新しい科目を構築するために検討すべき課題が残された。

<令和5年度連絡先>

団体名		東京都地理教育研究会	
代表者	所属	東京都立王子総合高等学校	
	職氏名	校長 櫛野 治和	
	連絡先	03-3576-0602	
事務局	所属	東京都立青山高等学校	
	職氏名	主任教諭 白川 和彦	
	連絡先	03-3404-7801	
団体ホームページ		URL	二次元コード
		https://tokyogis.moo.jp/index.html	